

ぶらりまち紀行

軍手はぶかぶかだけど、きれいなまちにしたい気持ちには大人と変わらない。子どもたちのつぶらな瞳がそう語る。でも、拾うごみがゼロに越したことはない。それが、本来のふるさとの姿だから…



～地域の輝き～
まちの一斉清掃（中野島地区）



7月3日午前7時。梅雨空の下、6000人の住民が集まった。「さあ拾うぞ」。はじめとした天気とは対照的に住民の足取りは軽い。この日、数々にも及ぶ堤防を歩きながら拾い集めたごみは2トに及んだ。

市民運動中野島地区推進協議会では、20年余にわたり地域ボランティアの一環として、まちの美化運動に積極的に取り組んでいる。川や道、海岸、公園といった公共施設を家の庭と同じように手入れする。その精神は、まちの一斉清掃でも同じこと。

「すきなまち」に「手（て）」を加えることで「すてきなまち」に変えることができ、まちがより身近なものになる。中野島地区では、まちの美化活動を通じて郷土愛を育み、次代を担う子どもたちにもそうした精神が受け継がれている。

拾った人は、捨てない！心も街も美しい中野島。あふれる笑顔がそう語っている。

